

三英傑「失敗に学んだ」

古戦場記念館 小和田館長が講演



関ヶ原合戦の歴史的意義や失敗から学ぶことの大切さを説く小和田哲男館長
＝関ヶ原町関ヶ原、岐阜関ヶ原古戦場記念館

関ヶ原町関ヶ原の岐阜関ヶ原古戦場記念館で、小和田哲男館長の講演会があり、大垣西濃信用金庫（大垣市）の取引先企業関係者ら14人が聴講した。小和田館長は「戦国武将に学ぶ経営戦略」と題し、1600年の関ヶ原合戦の流れや概要を説明した。「日

本は、合戦を機に分権国家から集権国家となった」と述べ、合戦の歴史的意義を強調。兵力数で勝っていた西軍の敗因について「小早川秀秋の寝返りと軍内部の意思疎通の悪さがあった」と解説した。

徳川家康が武田信玄に敗れた三方ヶ原の戦い後、家康の家臣への接し方が変わったと言いつつ、「家康は負けて強くなっていた側面がある。織田信長、豊臣秀吉を含む三英傑もいずれも何度か敗戦したが、失敗から学んでいった」と述べた。

講演会は、同金庫が戦国時代の軍師、竹中半兵衛の兵法を伝える古文書史料「軍法極秘伝書」全7巻を

寄贈した記念に開かれた。終了後、参加者は同館2階に展示された史料などを見学した。
（武藤直子）